

特別展

第20回世界バラ会議福山大会記念事業

Rose イメージの系譜

ルドゥーテからシャガール、北斎、芦雪、『ベルサイユのばら』まで

4月5日(土)ー6月8日(日)

前期:5月6日(火・休)まで 後期:5月8日(木)から

休 館 日＝月曜日 ※4月28日(月)、5月5日(月・祝)、19日(月)は開館、5月7日(水)は休館
開館時間＝9:30～17:00 ※5月18日(日)は21:00まで、6月6日(金)、7日(土)は19:00まで開館
観 覧 料＝一般1,500円(1,200円)、高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

近世以降の西洋と日本における様々な芸術に表現されてきたバラのイメージをたどる、その質と幅広さにおいて過去に例を見ない、大規模なバラの美術展です。ルドゥーテの希少な肉筆画やシャガールといった西洋美術はもちろん、北斎や長沢芦雪など江戸時代の日本の作品に表現されたバラ、「ベルサイユのばら」の貴重な原画、本展のために現代作家が制作した作品まで、多様な作品を通して、数百年にわたるバラのイメージを探ります。



福田美蘭《ダイヤル・ショッピング》1989年 作家蔵



葛飾北斎《黄鳥 長春》1834年頃
島根県立美術館 〔前期展示〕



オーギュスト・ルノワール《帽子の娘》1910年
SOMPO美術館 (損保ジャパンより寄託)

特別展

アートであそぼう
ブルーノ・ムナリー展

7月12日(土)ー9月15日(月・祝)

休 館 日＝月曜日 ※7月21日(月・祝)、8月11日(月・祝)、9月15日(月・祝)は開館、7月22日(火)は休館
開館時間＝9:30～17:00 ※8月9日(土)、10日(日)は19:00まで開館
観 覧 料＝一般1,500円(1,200円)、高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

イタリア・ミラノで生まれたブルーノ・ムナリー(1907ー1998)は、日本では絵本で知られるアーティスト、かつデザイナーですが、その作品は多岐にわたります。本展では、そうしたムナリーのさまざまな仕事を「絵画・グラフィック」、「彫刻・オブジェ」、「プロダクト」、「遊具・絵本」、「ワークショップ」と5つのテーマで展観します。見て、さわって、感じて、大人も子どももアートと楽しくあそぶ心をひろく、ムナリーの世界をのぞいてみませんか。



ブルーノ・ムナリー『ムナリーのABC』1960年/1982年
フィロメルブックス、日本ブルーノ・ムナリー協会蔵
©Bruno Munari. All rights reserved to
Maurizio Corraini s.r.l.



ブルーノ・ムナリー『小ざるのジジ』1950年/1999、2007年
日本ブルーノ・ムナリー協会蔵

特別展

生誕140周年
藤田嗣治 7つの情熱

2026年1月24日(土)ー3月29日(日)

休 館 日＝月曜日 ※2月23日(月・祝)は開館、2月24日(火)は休館
開館時間＝9:30～17:00
観 覧 料＝一般1,500円(1,200円) 高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

藤田嗣治(レオナール・フジタ、1886ー1968)は、西洋と東洋、それぞれから受けた影響を組み合わせ、独自のスタイルを確立した画家です。本展では、フランスの藤田研究の第一人者であるシルヴィー・ビュイッソン氏監修のもと、フランス各地に所蔵されている作品を中心に、藤田との関わりが深い日本人画家の作品を交えながら紹介します。自画像や女性像、宗教画など、彼の創作の源泉ともいえる7つの情熱に沿って藤田芸術の秘密を探ります。



藤田嗣治《おやすみなさい、雪中の猫といっしょの少女》1952年 個人蔵
© Fondation Fougita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 G3803

特別展

東京藝術大学大学美術館名品展
美の殿堂への招待

10月4日(土)ー12月7日(日)

前期:11月3日(月・祝)まで 後期:11月5日(水)から

休 館 日＝月曜日
※10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)、24日(月・休)は開館、10月14日(火)、11月4日(火)、25日(火)は休館
開館時間＝9:30～17:00
観 覧 料＝一般1,800円(1,440円) 高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

東京藝術大学は、前身の東京美術学校(1889年開校)時代から美術教育のための美術品の収集に力を注いできました。1999年には東京藝術大学大学美術館が開館しました。本展は、その大学美術館が所蔵する膨大なコレクションの中から、近代の美術作品に焦点を絞り、高橋由一《鮭》、狩野芳崖《悲母観音》(前期)など重要文化財をはじめ、日本画、洋画、彫刻、工芸など各分野からあわせて約120点を紹介します。



左：高橋由一《鮭》1877年頃 東京藝術大学蔵
右：黒田清輝《婦人像(厨房)》1892年東京藝術大学蔵

教育普及事業

第55回世界児童画展

8月2日(土)ー8月11日(月・祝)

世界の児童画と、国内・県内の児童・生徒の優秀作品を展示します。



第17回ふくやま子ども「生きる」美術展

2026年1月2日(金)
ー1月12日(月・祝)

児童・生徒のそれぞれの「生きる」をテーマとして個性豊かに描いたみずみずしい作品の中から、受賞作品を展示します。



スクール・プログラム《小中学生対象プログラム》



観察力・コミュニケーション力を高める「対話型」や知識・教養を深める「ガイド形式」の鑑賞プログラムなど、ご希望に応じてご提案します。

お問い合わせ：ふくやま美術館 TEL.084-932-2345
(火～日曜日の8:30～17:00)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年1月	2月	3月
4/5～		6/8	7/12～		9/15	10/4～		12/7	1/2～1/12	1/24～	3/29
特別展「Rose イメージの系譜 ルドゥーテからシャガール、北斎、芦雪、『ベルサイユのばら』まで」			特別展「アートであそぼうブルーノ・ムナリー展」			特別展「東京藝術大学大学美術館名品展 美の殿堂への招待」			第17回ふくやま子ども「生きる」美術展	特別展「生誕140周年 藤田嗣治 7つの情熱」	
4/3～		6/29	7/4～		9/23	9/27～		12/14	1/2～		3/29
春季所蔵品展「ベストセレクションー「今」見るふくやまの名品」			夏季所蔵品展「ブルーの世界」			秋季所蔵品展「没後50年 金島桂華ー自然へのまなざし」			冬季所蔵品展「何もないと思いきや…… 第3室・特集 高橋秀新収蔵品展」		